

開成の杜

第83号 ●2010年10月1日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口富左



中庭(建学記念講堂から)

(撮影 山口郁生)

”年輪を重ねて“



学園長 関口富左

この夏の記録的猛暑は殊の外厳しく、各地で熱射病による死者が多数出るなど、地球温暖化現象などということを超えた、異常ともいえる日々であった。

例年の今頃は、そこはかとなく秋が忍び寄り、夏から秋への移り変わりを感ずる、得がたい変化のときであろう。しかし、猛暑が過ぎた今、爽やかな風を感じる間もなく、冷たい空気が秋を運んできたようだ。

過ぎることのはかなさ、そして新たな思いをもつときを見失ってしまった。年の故であろうか、当たり前と思っていたことを失うと、不安ともつかぬ不鮮明な思いを見たりする。

本学園の学生・生徒・園児は、ここ開成の杜で、季節の変化を感じながら成長と発達が遂げられるが、入学・入園、進級から半年を経過、それにふさわしい自己形成を経ているのであろうかと案ずる。

すべての生き物は、その本性として成長・変化の妙を自然界から与えられている。まして、人間は環境を乗り越え、自己を充実する貴重な要素が育まれている。若者の元気のよい、生き生きとした様子に接すると、案ずることはないと思うと同時に、この思いを若いというのかと、我が身を案ずる。

学生・生徒・園児のみなさんと生活を共にしていると、我が身の過ぎ行く思いに絶えず悩まされる。だが然し、不鮮明な思いの中にも、老いてまた自己を感じ、若者と共にいることのよさを沁々と感じる日々である。

いま、学園は第六十四回「もみじ会」の開催に向けて準備の真最中である。本学園の「もみじ会」は、他の学校祭、文化祭とは目的を異にし、学修成果をいかに生活的に実践するかについて、日頃の研究を広く地域社会へ提供し、その成果の敷衍化を目的としている。六十四年の経過の中で、更に充実を究めている。

老いの身を励ましつつ、共に日々を有意義に思索して行こう!!

教育内容の充実と教職員の資質向上を目指して

第四十七回学園教育充実研究会開催



挨拶する関口富左学園長



講演する関口修理理事長

のこを受け、本年度は、授業実践報告に加え、本学における第三者評価の結果と今後の方向性についての検討を行った。

初日の全体会では、関口富左学園長による開会の挨拶に続いて、関口修理理事長・郡山女子大学短期大学部教授より、「第三者評価の結果と今後の第三者評価の方向性」と題して講演が行われた。講演ではまず日本高等教育評価機構の定める十一項目、短期大学基準協会の定める十項目の評価項目についての解説が行われた。講演者は短期大学基準協会の理事長でもあることから、「今後、専門分野別の評価機関が出現する可能性が高い」などの専門の立場からの見通しを交えながらの解説が行われた。

第四十七回学園教育充実研究会が八月十八日、十九日の両日、建学記念講堂小ホールを主会場に、学園全教職員の参加をもって開催された。本研究会は昭和四十四年に学校法人郡山開成学園の建学の精神に基づき発足して以来、学園教育の充実と発展を目的に継続的に教育の研究を積み重ねてきた。

近年、高等教育のユニバーサル化や職業教育の細分化が進みつつある現状をふまえて、教育内容ばかりでなく教育成果(Student Learning Outcomes)の評価についても多角的な検討が求められている。また、昨年度、郡山女子大学は財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると同機構より認定され、また郡山女子大学短期大学部は、財団法人短期大学基準協会が定める短期大学評価基準を満たしていると同協会より認定された。こ

う観点が取り入れられるだろう」などとの見通しが示され、最後に、「本学が今後も高等教育機関として質を保っていくためには、PDCAサイクル、「すなわちPlan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の循環が大切である」との見解が示され、講演は締めくくられた。

その後、授業実践発表が行われた。まず短大生活芸術科久家三夫教授による「色彩学 講義」―視覚系の構造と機能」、続いて附属高等学校・数学科・皆川智彦教諭による「数学―個人の能力にあつたわかる授業」の報告が行われ、それぞれ本研究会に先立って行われた公開授業の内容を、映像を交え紹介しながら授業の実践と授業評価についての報告が行われた。



授業実践発表を行う久家三夫教授



授業実践発表を行う皆川智彦教諭

続いて委員会報告が行われ、短大幼児教育学科音山若穂准教授により「学生による授業評価アンケートの活用について」と題し、大学・短大で行われている学生による授業評価データについての本年度の変更点の報告、および個々の教員によるデータの活用方法についての解説が行われた。

二日目は分科会での連けい研究が行われた。特に今回は教員に加えて全ての職員が参加し、十二の分科会に分かれて、講演や授業実践発表の内容、日々の授業の課題点などについて教員とともに活発な意見交換を行った。

分科会の後、全体会が行われ、分科会の討議内容の一部が紹介された。最後に関口富左学園長から「教員・職員が皆研修に励んでいるところを見て、大変うれしく思う」との講評があり、学園の一人ひとりの教職員が協力し、学園の伝統と研究成果を継承する大切さを確認し、本年度研究会を締めくくった。

家政学館屋上 太陽光発電設備の竣工

平成二十二年エコキャンパス推進工事(三カ年計画の二年目)において、家政学館屋上に太陽光発電設備(太陽光パネル九十六枚/発電容量…二〇・一六kW/年間発電総量…二四一八kW(本部キャンパス年間電気使用量の二%)が九月七日に竣工した。

自然エネルギーを利用した太陽光発電設備を導入し、クリーンエネルギーを用いて学内の電力を賄うとともに、学生、生徒、及び教職員にエネルギーの大切さを理解させ、二酸化炭素排出量の削減(年間七トン)を図るため設置した。

太陽光発電設備は、太陽の光エネルギーを直接電気エネルギーに変換

する半導体素子を利用しており、次のような特徴を有している。

○地球に降り注ぐ太陽エネルギーは、世界が消費する一年間のエネルギーを一時間で賄うことができ、石油や石炭など化石エネルギーと異なり、枯渇することがない。

○太陽エネルギーを直接電気エネルギーに変換するので、クリーンエネルギーである。

○太陽の光が届くところであれば、どこでも電気エネルギーが利用できる。

家族会主催万部別教育懇談会開催

平成二十二年家族会主催の方部会が七月三日の仙台、浜通りを皮切りに郡山、栃木、岩手、福島、会津、県南(白河)の八カ所で開催された。

郡山方部会では七月十日、建学記念講堂に関口富左学園長、関口修理理事長、山田副学長を始め全教職員が出席して開催された。

鈴木会長が挨拶したあと、角野教務部長が本学の教育方針、大学及び短大を卒業するために必要な単位数や出席率について説明した。

田辺学生生活部長からは、本学の

角野猛教授 第四十回日本食生活学会貢献賞を受賞

家政学部食物栄養学科角野猛教授は去る六月十九日に開催された第四十回日本食生活学会大会において同学会貢献賞を受賞した。同教授は同学会の副会長、企画・編集委員であり学会の発展に貢献したことが評価されたものである。

また、角野教授は去る八月二十六日(同二十七日)に、韓国国立江陵大学(カンヌン)で開催された発酵食品に関する国際セミナーにおいて招待講演を行った。テーマは、韓国の代表的な発酵食品であるシッケから分離されたローアミノ酸生成微生物に



家政学館屋上に設置された太陽光発電設備



貢献賞を受賞した角野猛教授

大学・短大合同説明会開催！

平成二十三年度入学者選抜実施要項発表

県内外の高校から進学指導関係の先生方をお招きしての、平成二十三年度入学者選抜実施内容及び教育内容等説明会が七月二日、建学記念講堂で開催された。本県を始め東北、北関東などから七十人の進学指導教諭が参加した。関口修学園長代理が「尊敬責任・自由」の建学精神に基づく本学の教育方針や創立以来継続している「芸術鑑賞講座」や「教養講座」で知を育てる教育に力注いでいると挨拶した。

参加者は、主任教授からの学科概

要の説明に耳を傾け、資料に目を通していた。特に昨年度から実施されている基礎能力調査について質問していた。

さらに、各学科、専攻ごとの個別面談では、選抜形態に係わる具体的な対応や資格取得、就職状況について熱心な質問があった。

同時に設営された出身学生との面談会場では、教え子から本学での授業や生活ぶりなどを聞き、参考にしていた。

附属高校！

平成二十三年度教育内容等説明会

県内各中学校から、進路指導関係の先生方を多数お招きして、平成二十三年度の教育内容を説明する会が九月十日、記念講堂にて開催された。

初めに関口修校長代理が開学以来一貫して「女子高等教育の普及と向上」を目指してきた本学の歴史と「尊敬責任・自由」の建学の精神に基づき、女性としての特性を発揮できる人材の育成を目指す教育について述べた。

次いで、普通科・音楽科・美術科・食

物料の学科紹介と各学科の特徴についての説明があった。特に、二十三年度からの普通科におけるコース名変更とコース選択方法の変更点について詳しく説明した。

その後、柴副校長より平成二十三年度の入学者選考要項についての説明があり、さらに大学から山田副学長の郡山女子大学と同短期大学部の概要説明があった。

【本校入学者選考の概要】

○募集人員 二八五名(女子のみ)

☆普通科 二一〇名

●就職現況報告(就職部)

平成二十三年三月卒業予定の全国学生における就職環境は前年同様相変わらず厳しい状況にあり、その状況は本学学生にとっても同様であります。しかし、そのようななかにおいても就職活動をきちんと行い、内定を得ている学生も数多くいます。

就職部としては一人でも多くの学生が内定を得ることができるよう大学三年生・短大一年生の時から学生に対し様々な就職支援事業を行っています。そのいくつかを紹介すると、就職活動の指針となる内容の就職ガイダンスや就職活動に関しまして細やかな説明・指導をする就職対策講座を行っています。具体的には、就職部ホームページによる就職活動の知識や求人検索の仕方、自己分析の仕方や履歴書・エントリーシートの書き方、面接指導としての対策講座や模擬面接、先輩の就職活動報告会などです。さらに公務員・民間企業の筆記試験対策講座や模擬試験も行っています。学生の皆さんはこのチャンスを大いに活用して卒業時には就職が内定するように努力してください。

就職部では常に学生の就職相談に応じています。

大学・人間生活学科学生がお年寄りとの交流を図る

本学人間生活学科福祉コースの学生と本宮市との地域連携事業「高齢者いきいき交流」が九月四日、本宮市の市民元氣いきいき応援プラザ「えぼか」でスタート、学生とお年寄りが親睦を深めた。本学家政学部人間生活学科福祉コースの二年生十人と市内のふれあいサロンに所属するお年寄り十人が参加。「幸せなら手をたたこう」を一緒に歌い、ゲームで当たった人が子どもの頃の呼び名を発表するなど楽しんで、この高齢者いきいき交流事業は今後、月一回予定されている。

平成二十三年度入学案内概要

◆募集人員

【大学院】

本大学院は、本大学家政学部人間生活学科及び食物栄養学科を基礎に、人間生活学研究科人間生活学専攻の修士課程(二年)、さらに博士(後期)課程(三年)を設けている。

○人間生活学研究科

修士課程一〇名(含昼夜開講制)。

博士(後期)課程三名。

【大学】

家政学部人間生活学科四〇名(生活総合コース・建築デザインコース二〇名・福祉コース二〇名)。家政学部食物栄養学科八〇名。

【大学三年次編入】

本大学では、両学科とも三年次への編入を認めている。募集人員は両学科とも各一〇名。

短期大学、高等専門学校、専修学校専門課程を卒業、修了または見込みが条件であるが、同等以上の学力があると認められた者も出願できる。

【短期大学部】

家政科福祉情報専攻

家政科食物栄養専攻

幼児教育学科

生活芸術科

音楽科

文化学科

【専攻科文化学専攻】

人間の歴史や文化を体系的に学び、総合的な判断力で豊かな人間性を培う。大学評価・学位授与機構の審査をパスすると「文学士」の学位を得ることができる。

◆選抜方法

推薦生(特待生・指定校・公募)

特別生(専門・総合学科／高等専門／専修／社会人／高認合格／外国人留学生／帰国子女)

高大連携生(本附属高校生)

AO生(自己推薦)

一般生(入試センター試験併用可)

◆選抜日程

(別項参照)

◆AO生選抜日程

I期募集終了。

II期募集終了。

III期生の募集は次のとおりです。

■大学 家政学部人間生活学科

■短大 家政科福祉情報専攻・家政科食物栄養専攻・幼児教育学科・生活芸術科・音楽科・文化学科で実施します。

エントリー期間 9/24(金)～10/7(木)

面接日 10/16(土)

合格通知 10/21(木)

また、二十二年度から実施されている基礎能力調査(昨年は基礎学力調査)とは、当該学科に入學した場合に、基本的に身につけていなければならない高校までに学習した知識を調査するもので大学、短期大学部の特待生・指定校推薦・公募推薦・高大連携生・AO・特別生入試で実施される(一般生は除く)。

*詳しくは教務部入学事務部まで

平成23年度 選 抜 等 日 程

	選抜方法	願書受付期間	選抜日	合否通知発送日	手続き締切日
大 学	指定校推薦生・特待生 公募推薦生 I 期 特別生 I 期	10/25(月)～11/5(金)	11/13(土)	11/19(金)	12/2(木)
	高大連携生	10/25(月)～11/5(金)	11/12(金)	11/19(金)	12/2(木)
	公募推薦生 II 期 特別生 II 期	11/24(水)～12/6(月)	12/11(土)	12/17(金)	12/30(木)
	一般生 I 期	1/17(月)～1/28(金)	2/2(水)	2/5(土)	2/15(火)
	一般生 II 期	2/7(月)～2/18(金)	2/26(土)	3/3(木)	3/15(火)
短 期 大 学	指定校推薦生・特待生 公募推薦生 I 期 特別生 I 期	10/25(月)～11/5(金)	11/13(土) 11/14(日)※①	11/19(金)	12/2(木)
	高大連携生	10/25(月)～11/5(金)	11/12(金)	11/19(金)	12/2(木)
	公募推薦生 II 期 特別生 II 期	11/24(水)～12/6(月)	12/11(土) 12/12(日)※②	12/17(金)	12/30(木)
	一般生 I 期	1/17(月)～1/28(金)	2/3(木)	2/6(日)	2/15(火)
	一般生 II 期	2/7(月)～2/18(金)	2/27(日)	3/3(木)	3/15(火)

※①11/13(土) 生芸・音楽・文化 11/14(日) 福情・食栄・幼児教育 ②12/11(土) 生芸・音楽・文化 12/12(日) 福情・食栄・幼児教育

パネル展示で担当教員が 教育内容を説明

大学／人間生活学科

人間生活学科では、「生活総合コース」「福祉コース」「建築デザインコース」の内容をパネルで展示。内容は三コースの目的、特色、取得可能な資格、免許などであり、参加者はそれぞれの部門の担当教員が説明にあたり、ていねいに、わかりやすく内容を説明した。



パネルで教育内容を説明

「管理栄養士の役割」および 食物栄養学科の教育内容を説明

大学／食物栄養学科

食物栄養学科では、健康を「食」から支える「管理栄養士の役割」および食物栄養学科の教育内容を説明した。在学生との懇談では大学の雰



生活習慣病を予防する食生活について解説

オリジナルカード作りに挑戦

短大／家政科福祉情報専攻

「手話によるコミュニケーションのとり方を楽しく学ぼう」「パソコンでオリジナルカードを作ってみよう」で模擬授業を行った。手話による自己紹介の仕方と簡単な日常会話について参加者にも覚えてもらうよう指導して、手話によるクラスも楽しんだ。



カード作りを教わる高校生

「糖尿病食」を体験

短大／家政科食物栄養専攻

低カロリーで栄養バランスのとれた「糖尿病食」の試作・盛り付けを体験した。在学生が実習台に一人ずつ付き作業を手伝った。在学生との懇談では授業内容と入学選抜（基礎能力調査）、奨学金、家庭寮などについて質問があった。



糖尿病食を作る

真剣に取り組む参加者

短大／幼児教育学科

模擬授業への参加者は保育士や幼稚園教諭の意欲を固めた生徒がほとんど。幼児教育学科の教育目標やカリキュラムと取得資格などについて質問していた。実技では「歌とリズムあそび」「造形体験」を真剣に学んだ。



「歌とリズムあそび」を体験する

純粋で鋭い感性と自由な精神で 潤いのある生活の創造を

短大／生活芸術科

純粋で鋭い感性と自由な精神で潤いのある生活の創造に役立つ学習として「彫刻工芸」「絵画」「CG」「デ



先輩の作品に見入る高校生

熱心に受講する参加者

短大／音楽科

授業内容は入学選抜にも関係ある、聴音を主に和音と旋律の書き取り、新曲視唱・リズム等で、参加者は熱心に受講していた。音楽科で取得可能な音楽療法士についての内容説明も行った。



個人レッスンを見学する

知的授業を体験

短大／文化学科

模擬授業の「シボルを読み解く」では西洋絵画や彫刻について隠されている意味について学んだ。「縄文土器との対話」では土器の拓本作り。参加者は初めての体験で、終始にこやかな雰囲気でのなか進められた。在学生との懇談では、就職、授業などについて質問があった。



土器の拓本作り

全国大会に出場

平成二十二年全国高等学校総合体育大会が七月二十八日から沖縄県で開催され、本校からバレーボール部、弓道部、剣道部が出場した。

バレーボール部

県予選を順調に勝ち上がった本校は決勝戦で春高バレーで敗れた保原高校と対戦。第三セット終盤までは一進一退の展開が続いたが「粘り」を見せた本校が最終的に保原高校を突き放し、三年連続十四年度の優勝を果たした。

全国大会の予選リーグでは土浦日大高校・茨城、敗者復活戦では富山第一高校（富山）に0-2で敗れ、上位進出はならなかった。

次なる目標の春高バレーへ向け練習がスタートした。



3年連続14度目の県優勝を果たしたバレーボール部（写真提供：福島民報社）

剣道部（個人戦）

本校剣道部の高橋和代（三年）選手は回戦で兵庫県代表に敗れたが「インターハイで自分の剣道ができた変身したい。全国大会で学んできたことを今後に活かし、もっと成長したい」と話した。



高橋和代選手（左）

弓道部（個人戦）

本校弓道部の高橋千穂子（三年）選手が出場したが、一本の中が足りず惜しくも予選敗退。試合後足がものすごく震え、今までの緊張でしんどい試合後に語ったが堂々とした闘いぶりだった。



高橋千穂子選手

大学弓道部

第五十八回全日本学生弓道選手権大会が八月、東京の日本武道館で開催された。本学弓道部も団体戦、個人戦に出場した。上位進出には至らなかったが、一二年生を中心に構成された若いメンバーにとっては、次の機会に繋がる良い経験となった。大会終了後には、猛暑に負けずに毎日、次の大会に向けて練習に取り組む姿がみられた。

特集 私たちの学園

可能性の扉を開く日

10オープン キャンパス



オープンキャンパスのオリエンテーション

模擬授業に出席し、施設の見学や在学生との懇談、直接志望学科の先生方からアドバイスが受けられるのはオープンキャンパスが唯一の機会。本年度のオープンキャンパスは六月十三日、七月十八日、九月五日の三回開催された。参加者は東北の各県や北関東、新潟から合わせて約千人。オリエンテーションでは関口富左校長から建学の精神と沿革、女子の高等教育への熱意が語られ、本学の人間教育とその概要に理解を深めた。各科が実施した当日の模様などを紹介する。

憧れの高校生活

附属高校体験入学会開催

附属高校の平成二十二年年度体験入学会が七月三十一日、八月一日の両日にわたって開催された。毎年行われる体験入学会であるが、昨年に比べて参加者が増え、郡山市内はもとより県内各中学校から、中学生、教員、関係者ら合わせて四百八十八名が体験に訪れた。

両日も天候に恵まれ、会場内は意欲にあふれる中学生の熱気に満ちていた。

開会式では、関口富左校長から、「ようこそ、体験入学会へ」と歓迎の言葉が述べられ、続いて本校の学科お



熱心に資料を見る中学生

よびコースの内容がスクリーンで紹介された。さらに、柴副校長から平成二十三年度の入学者選考についての説明があった。次いで、渡辺萌生徒会長の歓迎の挨拶があり、新体操部による美しい歓迎演技で式を閉じた。

開会式のと、参加者は授業体験、部活動体験のグループと施設見学のグループに分かれて高等学校の活動を体験した。特に音楽科、美術科、食物科の体験では、実習や実技を通して高校の授業の一端を身体で感じることができ、中学生は満足した様子であった。また、部活動体験では高校生の力あふれる演技や動きに圧倒される様子が見られた。

昼食後に開催された音楽科、音楽部のミニコンサートでは、芸術性の高い演奏が披露された。その後の閉会式で、体験入学者を代表して郡山三中阿部萌夏さんと郡山一中中村真由さんから「実際に高等学校を見学し、興味深かった。今回の体験入学会で学んだこと、感じたことをこれからの学習や進路選択に役立てていきたい」と爽やかな挨拶があった。

NEWS 学園ニュース

宮崎の高校総文 笹山さん放送朗読で優秀賞

高校生の文化の祭典「第三十四回全国総合文化祭」の放送部門「朗読部門」で本校三年の笹山佳奈さんが全国で十人の優秀賞に選ばれた。

笹山さんが選んだのは玄侑宗久さんの「龍の棲む家」。「表現が気に入る、数え切れないほど朗読して全国大会に臨みました。目標以上の成績で大変嬉しいです」と語った。朗読部門には約百四十人が出場した。



朗読する笹山さん

その他の大会入賞者

短大生活芸術科

●第六十四回福島県総合美術展
入選 絵画部門／須田成美（二年）、鈴木愛唯、星美幸（二年）

入選 工芸部門（染色）／加藤梓、菅野実咲季（二年）

●第五十七回福島県水彩展
入選 会員奨励賞／宗方隆子（講師）、五十嵐麻美、遠藤千鶴、草野順子、車田美樹、鈴木愛唯、谷本梢坂、内愛海、山田梨紗（二年）

●妖精の絵コンテスト（主催：大沼郡金山町）

入賞 妖精大賞 CGの部／谷本梢（二年）

佳作 一般の部／五十嵐春菜、須田

成美

入選／大槻未来（二年）

●第六十二回毎日書道展
入選（U23）の部／遠藤千鶴、草野順子、車田美樹、谷本梢（二年）

*会期 平成二十二年十月七日（日）～十一日（日）

*会場 山形美術館（東北山形展）四名入選の快挙

附属高校

●第二回昭和館高校生ポスターコンクール 優秀賞

●第二十九回福島県高等学校総合文化祭ポスター原画 最優秀賞／柳沼理穂（三年）

スタントマン招き 交通事故の衝撃を再現

プロのスタントマンが事故状況を再現する自転車交通安全教室が五月十七日、附属高校で開かれ、生徒たちは交通事故の衝撃の大きさや危険性について理解を深めた。

全校生徒六百二十人が参加。自転車に乗った人が車にはねられる際の衝撃の大きさや、蛇行運転して後ろからはねられる事故などの七パターンの再現した。

実演後は、警察への通報や被害者救護訓練等も行われ、自転車に乗る時のマナーや危険回避、事故後の対応などについても理解を深めた。



車にはねられるスタントマン

文化学科考古学実習

●笹山原遺跡NO.二六発掘調査

五月八日から十八日まで会津若松市笹山原遺跡NO.一六において文化学科考古学実習が実施された。



大きな成果が上がった発掘調査

熱戦！ 校長杯争奪校内球技大会

―附属高校―

高校長杯校内球技大会が七月十五日、十六日の両日、バレーボール、バスケットボール、卓球の三種目で熱戦が繰り広げられた。クラス一丸となった競技、応援の声が学園に響き渡った。成績は次の通り。

バレーボール
一位 三年二組
二位 一年二組

校内合唱コンクール 三年三組が学校長賞

附属高校恒例の校内合唱コンクールが六月二十八日建学記念講堂で行われた。全校生六百七十七人が登場した。各クラスごとに選曲し、これまでの成果を披露。「YELL」を歌い上げた三年三組が学校長賞を受賞した。成績は次の通り。

学校長賞 三年三組
金賞 三年五組 三年食物
優秀賞 三年二組 三年六組
二年三組 二年食物
一年二組 一年食物



第36回校内合唱コンクール

発令

昇任（四月一日付）
管財部管財課主任 高橋 一
退職（依頼 九月三十日付）
短大／幼児教育学科
音山若穂准教授

学校法人
郡山開成学園

平成二十一年度
事業報告

一、法人の概要

(1) 建学の精神

本学園は、建学の精神「尊敬」「責任」「自由」を教育目標としている。

それは、お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創り他者においてそれを認めること、そして、人間として存在するために、責任ある行動で社会への自覚を持つこと。

つまり、個性を重視し、互いに理解する(個)の確立と(他)との協調をもつて、自主・自立できる女性としての人間育成を図るのが目的である。

(2) 学校法人の沿革

○法人名 学校法人郡山開成学園
(創立昭和22年4月22日)

○所在地 福島県郡山市開成三丁目25番2号

○理事長 関口 修

○学園長 関口 富左

○設置学校名

郡山女子大学大学院

開設…修士課程平成4年4月
博士課程平成8年4月

郡山女子大学

開設…昭和41年4月

郡山女子大学短期大学部

開設…昭和25年4月

郡山女子大学附属高等学校

開設…昭和32年4月

郡山女子大学附属幼稚園

開設…昭和30年4月

(3) 学校・学部・学科等の入学定員、学生数の状況(平成21年5月1日現在)

学生数の状況

在籍総数

2,046名

学則等収容定員

2,909名

○在籍数一覧 表①参照

○平成21年度修了生・卒業生数

2名

大学

大学院

短大

専攻科

高校

幼稚園

計 820名

○現在までの修了生・卒業生数 90名

表① 院生・学生・生徒・園児在籍総数[2,046人]学則等収容定員[2,909人]

課程名	在籍数	入学定員	在籍学生数					収容定員
			(修)1	(修)2	(博)1	(博)2	(博)3	
修士課程	10	4	2	0	0	0	0	6
博士課程	3	0	0	0	0	0	0	9
合計	13	4	2	0	0	0	0	29

学科名	在籍数	入学定員	編入定員	在籍学生数					収容定員
				1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
人間生活学科	50	10	34	28	33	32	127	220	
食物栄養学科	80	10	82	75	90	88	335	340	
合計	130	20	116	103	123	120	462	560	

学科名	在籍数	入学定員	在籍学生数			収容定員
			1年次	2年次	合計	
福祉情報	70	30	143	38	181	140
食物栄養	130	113	120	158	278	260
幼児教育学科	150	126	158	284	300	300
生活芸術科	30	16	17	33	60	60
音楽科	50	26	30	56	100	100
文化学科	50	29	45	74	100	100
合計	480	340	408	748	960	960

専攻科	文化学専攻	20	7	3	10	40
-----	-------	----	---	---	----	----

学科名	在籍数	入学定員	編入定員	在籍学生数					収容定員
				1年次	2年次	3年次	4年次	合計	
普通科	240	138	173	196	507	880			
音楽科	20	13	9	10	32	60			
美術科	20	13	14	16	43	60			
食物科	40	39	31	38	108	120			
合計	320	203	227	260	690	1,120			

年令別	在籍数	在籍園児数			20年4月入園児数	収容定員
		男	女	合計		
3才児	16	20	36	29	40	
4才児	14	21	35	5	80	
5才児	25	34	59	0	80	
合計	55	75	130	34	200	

表② 教職員

学校別	教員数	職員数	非常勤講師	合計
郡山女子大学	38名	23名	34名	95名
郡山女子大学短期大学部	53名	40名	73名	166名
郡山女子大学附属高等学校	58名	10名	24名	92名
郡山女子大学附属幼稚園	9名	1名		10名
計	158名	74名	131名	363名

☆時間雇用職員 8名

二、事業の概要(当該年度)

※理事会・評議員会
理事会5回開催、評議員会4回開催、
監事監査1回実施、会計士監査3回実施

本学の建学の精神である「尊敬・責任・自由」と学園の基本方針である「品位高尚」「秩序儉約」「創造自立」を元に、それぞれの学科・部署において計画した教育・運営に関する事項を実施した。

※第三者認証評価の実施

○大学 日本高等評価機構
日時 平成21年10月13日(火)、14日(水)

○短大 財団法人短期大学基準協会
日時 平成21年10月21日(水)、22日(木)

※実施した主な事業
(1)学園関係

4月21、22日 学園創立63周年記念式典
9月30日 第63回学園オリムピック

10月3、4日 第63回もみじ会

1月16、17日 平成22年度大学入試センター試験(会場校)

(2) 大学院大学短大

郡山女子大学・同短期大学の学則定員の改定

・大学院修士課程第18回、大学第44回、短大第60回、専攻科第10回入学式

・第46回学園教育充実研究会(全教職員)

・平成22年度入学大学院生Ⅰ期Ⅲ期選抜実施

・平成22年度AO生Ⅰ期Ⅲ期選抜実施

・平成22年度大学3年編入Ⅰ期Ⅲ期選抜実施

・平成22年度入学大学短大指定校生選抜実施

・平成22年度入学大学短大特待生・公募推薦生Ⅰ期特別生Ⅰ期公募推薦生Ⅱ期特別生Ⅱ期・専攻科Ⅰ期専攻科Ⅱ期選抜実施

・平成22年度入学大学短大一般生Ⅰ期Ⅱ期選抜実施

・大学院修士課程第17回修了式

・大学第41回、短大第59回、専攻科第9回卒業式

その他
主任・大学短大教授会(月1回)、臨時教授会(合否判定)、学生生活課会議、就職対策委員会、担当者会議、期末試験、教育実習、定期演奏会、高原学校、卒業研究発表、健康診断、学生相談、教育課程体験事前指導など

※平成21年度卒業生就職状況
大学 卒業生数110人 就職希望者103人 就職決定者数93人(就職率90%)

短大 卒業生数390人 就職希望者319人 就職決定者数294人(就職率92%)

(3) 附属高等学校
「私を創る」という努力目標を掲げ、生徒一人ひとりが自分の目標設定し、高校生活をより有意義に送る為に、生徒の自己啓発と自覚性を育成するという観点から、全教員が一丸となって取り組んだ。

教師自身も、各学科・教科や各部署・学年それぞれにおいて、努力目標を設定し、その目標実現のために努力した。

①学則定員変更申請(平成21年4月実施)

②納付金の改訂申請(平成21年4月実施)

③実施した主な事業

・附属高等学校第53回入学式

・第1回、2回体験入学(高校)

・平成22年度入学大学短大「高大連携生」「特待生」選抜実施

・附属高等学校特待生・推薦生選考会

・附属高等学校学力選考会

・附属高等学校第51回卒業式

その他
職員会議・運営委員会(月1回開催)、単票・一覧票提出

考查(前期中間、後期末、後期中間、後期末、追、再、音楽科実技等)

実力テスト、進路相談会、集会・表彰伝達式・壮行会、生徒総会、服装指導、交通安全教室、列車通学者指導、自転車点検、健康診断、修学旅行、校内合唱コンクール、校内球技大会、定期演奏会、学校スキー、学校登山、卒業発表会、卒業作品展など

○部活動及び応募等の全国大会出場

○平成21年度全国高等学校体育大会バレーボール出場・優秀選手表彰

○第14回全国私立高等学校男女バレーボール選手権大会出場

○平成21年度全国高等学校総合体育大会 弓道競技出場

○第9回東日本高等学校弓道大会出場

○第28回全国高等学校弓道選抜大会出場

○第3回声楽アンサンブルコンテスト全国大会出場 Aグループ・Bグループ

○マーチングバンド部 第33回全国高等学校総合文化祭三重大会出場

○「インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト2010」全国大会・準優勝

(4) 附属幼稚園
本園は、「よくみる、よくきく、よくかんがえて」を教育目標として、教職員全員が一丸となって、園児一人ひとりにきめ細やかな保育と基本的な生活習慣を身につけさせるとともに集団での遊びにも力を入れて保育を行った。

又、園児の事故をなくすことに努め、生活指導に力を入れ、安全管理に心がけ、教師間の連携を十分に図りながら保育を行った。

それから、スクールバス2台にて通園圏をカバーし、利用者は約70名(全園児の50%)で事故等もなく年度を終了した。

延長保育は、仕事や家事都合等で利用する家庭も多く、家庭的な雰囲気の中で保育が進められた。

実施した主な行事

・附属幼稚園第55回入園式

・附属幼稚園運動会

・1日入園

・附属幼稚園第55回卒園式

・その他

春・秋の遠足、保育参観、プール開き、お泊り保育、どじょうつかみ、七五三、ばくとわたしのさくひんてん、クリスマス会、おもちゃつき、節分のおあつまり、お別れ会食、親子パーティー、発表会、園庭整備、父母の講座、KGCマミークラブ

(5) 家庭寮

・新入寮生オリエンテーション、リーダー会議

・新入寮生歓迎会、お食事会、七夕会、いも煮会、クリスマス会等

(6) 大学図書館(高校分館を含む)

・本学園図書館高大連携打合せ会(2回実施)

・運営委員会(6回実施)

(7) 学園創立者関口育英奨学金の支給

平成21年度 大学生10名、短大生10名、高校生10名 計30名

(8) 学生・生徒・園児募集

・進学相談会(会場形式8社)

・高等学校訪問、中学校訪問

・大学・短大オープンキャンパス(3回実施)

(9) 安全管理

・学生・生徒・園児の安全対策(警備の強化による安全確保)

・交通事故防止(安全運転等の啓発)

・避難訓練(大学・短大1回、高校1回、幼稚園2回、家庭寮2回)

※施設設備関係
教育の場に相応しい環境の充実を図るべく、様々の環境整備を行った。

・高校管理棟防火区画新設、高校普通教室新棟改修、講堂舞台照明設備更新(3ヶ年計画の1年目)、エコキヤンパス推進設備、BEMS設備 他

※環境関係
エコアクション21(以下E.A.21)の中間審査が今年度行われ、E.A.21が要求する事項をクリアし、ガイドラインに適合するとの評価を受けた。

※家族会等

・家族会総会(5月26日)

・家族会方別教育懇談会(開催時

期は7月上旬から7月下旬)
県北・田村・県南・郡山方部会(高校)
仙台・浜通・栃木・岩手・福島・会津・県南・郡山方部会(大学・短大)
・福島県私学振興大会(福島文化センター)
※平成21年度芸術鑑賞講座
・「チエコラルホーム・ソリスト」演奏会
・日中合作・大型人形劇「三国志総集編」

平成二十一年度 決算報告

学校法人郡山開成学園の平成二十一年度決算について、東邦監査法人の監査を受け、理事会・評議会で報告、決定されましたので、その概要をご報告致します。

平成二十一年度資金収支計算書において、資金収入合計は、6,270,955千円となり、予算より、1,438,155千円上回りました。これは、主として、学生生徒等納付金収入及び補助金収入他で見込みを下回ったが、資産運用収入及び、その他の収入が見込みを上回った為であります。

資金支出合計は、人件費支出及び設備関係支出他が予算より下回ったが、教育研究経費支出及び、施設関係支出で82,360千円上回ったことにより、6,270,955千円となりました。

この結果、次年度繰越支払資金は3,181,655千円となり、予算より1,645,875千円増となりました。

平成二十一年度消費収支計算書において、消費収入合計より消費支出合計が大きいため、当年度消費支出超過額は、556,235千円となっております。その主な理由は、教育研究経費の増加及び、高校普通教室改修工事等により、基本金組入額を計上したことによるものであります。

従って、当年度消費支出超過額556,235千円に、平成二十年度決算の繰越消費支出超過額3,126,148千円を加え、翌年度繰越消費支出超過額は、3,682,383千円となりました。

一方、貸借対照表では、資産に関し

・もみじ会写真展「虫の目の世界」
・国立サント・ベルフルクアカデミーバレ「くるみ割り人形」
※平成21年度教養講座
・講師 田淵久美子氏 脚本家
演題 「女の道は一本道」篤姫の生き方」
・講師 越川禮子氏 江戸しぐさ理事
演題 「いきで素敵な江戸しぐさ」
・講師 玄侑宗久氏 福寿寺住職
演題 「個性とは何か」日本人の基本ソフト」

では、将来に備え、教育研究施設等を充実させる為、資金を計画的に積立て、安全で有利な資産運用に努めております。

また、負債に関しては、退職給与引当金の計上、並びに次年度授業料等前受金、期末未払金等以外には、金融機関等からの借入金もなく、健全な財務状況にあります。

平成二十一年度末の正味資産は、前年比393,311千円減少し、11,314,398千円になっております。

監査報告書

平成二十二年五月十九日
学校法人 郡山開成学園
監事 橋本 忠雄
監事 遠藤 武士

私たちは、学校法人郡山開成学園の監事として、私立学校法第三十七条第三項に基づいて同学園の平成二十一年度(平成二十一年四月一日から平成二十二年三月三十一日まで)における財産目録及び計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び附属明細表)を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他の重要な会議に出席するほか理事から業務の報告を聴取し、重要な決済書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実はないことを確認いたしました。以上

1 資金収支計算書

資金収支計算について、その主な内容をご報告いたします。
平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

〔資金収入の部〕		(単位:円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金収入	1,635,500,000	1,628,266,500	7,233,500	
手数料収入	29,000,000	29,024,702	△ 24,702	
寄付金収入	17,500,000	19,372,256	△ 1,872,256	
補助金収入	662,100,000	636,073,000	26,027,000	
国庫補助金収入	346,630,000	295,284,000	51,346,000	
地方公共団体(県)補助金収入	311,470,000	336,848,000	△ 25,378,000	
地方公共団体(市)補助金収入	4,000,000	3,941,000	59,000	
資産運用収入	85,000,000	95,975,564	△ 10,975,564	
資産売却収入	100,000	0	100,000	
事業収入	111,260,000	117,821,146	△ 6,561,146	
雑収入	223,500,000	209,119,132	14,380,868	
前受金収入	460,000,000	475,301,000	△ 15,301,000	
その他の収入	622,376,889	1,980,237,328	△ 1,357,860,439	
資金収入調整勘定	△ 700,000,000	△ 606,698,288	△ 93,301,712	
前年度繰越支払資金	1,686,463,111	1,686,463,111	0	
資金収入の部 合計	4,832,800,000	6,270,955,451	△ 1,438,155,451	

国庫補助金収入が見込みを下回りました。

期日が1年以内となる長期定期預金の繰入収入が1,400,000,000円ありました。

〔資金支出の部〕		(単位:円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	
人件費支出	2,120,720,000	2,112,570,287	8,149,713	
教育研究経費支出	421,900,000	482,139,979	△ 60,239,979	
管理経費支出	136,500,000	135,035,887	1,464,113	
施設関係支出	117,436,000	139,555,693	△ 22,119,693	
設備関係支出	139,564,000	76,954,673	62,609,327	
資産運用支出	201,000,000	35,319,816	165,680,184	
その他の支出	166,468,615	166,473,975	△ 5,360	
予備費	7,900,000	-	7,900,000	
資金支出調整勘定	△ 14,468,615	△ 58,750,086	44,281,471	
次年度繰越支払資金	1,535,780,000	3,181,655,227	△ 1,645,875,227	
資金支出の部 合計	4,832,800,000	6,270,955,451	△ 1,438,155,451	

2 消費収支計算書

消費収支計算について、その主な内容をご報告いたします。
平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

〔消費収入の部〕		(単位:円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等納付金	1,635,500,000	1,628,266,500	7,233,500	
手数料	29,000,000	29,024,702	△ 24,702	
寄付金	25,500,000	24,336,999	1,163,001	
補助金	662,100,000	636,073,000	26,027,000	
国庫補助金	346,630,000	295,284,000	51,346,000	
地方公共団体(県)補助金	311,470,000	336,848,000	△ 25,378,000	
地方公共団体(市)補助	4,000,000	3,941,000	59,000	
資産運用収入	85,000,000	95,975,564	△ 10,975,564	
資産売却差額	100,000	0	100,000	
事業収入	111,260,000	117,821,146	△ 6,561,146	
雑収入	223,500,000	209,119,132	14,380,868	
帰属収入合計	2,771,960,000	2,740,617,043	31,342,957	
基本組入額合計	△ 265,000,000	△ 162,924,154	102,075,846	
消費収入の部合計	2,506,960,000	2,577,692,889	△ 70,732,889	

主なものとして高校普通教室改修、講堂照明設備更新工事がありました。

3 貸借対照表

貸借対照表について、その主な内容をご報告いたします。
平成22年3月31現在

〔資産の部〕		(単位:円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定資産	9,814,335,612	11,397,835,556	△ 1,583,499,944	
有形固定資産	8,409,731,708	8,637,845,105	△ 228,113,397	
その他の固定資産	1,404,603,904	2,759,990,451	△ 1,355,386,547	
流動資産	3,260,267,575	2,125,198,336	1,135,069,239	
資産の部合計	13,074,603,187	13,523,033,892	△ 448,430,705	
〔負債の部〕		(単位:円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定負債	1,127,344,158	1,120,765,017	6,579,141	
流動負債	632,861,004	694,559,915	△ 61,698,911	
負債の部合計	1,760,205,162	1,815,324,932	△ 55,119,770	
〔基本金の部〕		(単位:円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
第1号基本金	14,750,781,768	14,587,857,614	162,924,154	
第4号基本金	246,000,000	246,000,000	0	
基本金の部合計	14,996,781,768	14,833,857,614	162,924,154	
〔消費収支差額の部〕		(単位:円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
翌年度繰越消費支出超過額	△ 3,682,383,743	△ 3,126,148,654	△ 556,235,089	
消費収支差額の部合計	△ 3,682,383,743	△ 3,126,148,654	△ 556,235,089	
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
負債の部、基本金及び消費収支差額の部合計	13,074,603,187	13,523,033,892	△ 448,430,705	

参考			
正味資産	11,314,398,025	11,707,708,960	△ 393,310,935
(※正味資産＝資産－負債)			
減価償却の累計額	6,356,087,462	5,947,057,828	409,029,634

4 財産目録総括表

財産目録について、その主な内容をご報告いたします。
平成22年3月31日現在

項 目		金 額	備 考	
基本財産		8,439,466,227		
土地	181,985.30㎡	2,731,813,350		
建物	50,943.64㎡	4,692,010,169	減価償却累計額	4,229,497,288円
構築物	306点	158,238,190	減価償却累計額	629,986,844円
教育研究用機器備品	12,849点	337,357,147	減価償却累計額	1,419,532,558円
その他の機器備品	765点	16,749,785	減価償却累計額	33,483,479円
図書	149,982冊	473,563,062		
車両	5台	5	減価償却累計額	27,002,095円
水道施設利用権		3,166,027	減価償却累計額	15,599,563円
借地権		980,389		
電話加入権		2,918,498		
ソフトウェア	1件	22,669,605	減価償却累計額	985,635円
運用財産		4,635,136,960		
現金・預金		3,181,655,227	預入先	東邦銀行他2行
有価証券		700,000,000	外国債券等	
出資金		9,951,400	福島県私学振興基金協会等	
育英奨学基金引当特定資産		548,007,200		
退職金引当特定資産(学園年金積立金)		116,410,785	預入先	明治安田生命保険相互他1社
未収入金		78,596,988	退職金財団交付金等	
前払金		15,360		
その他の資産		500,000		
資産合計		13,074,603,187		
固定負債		1,127,344,158		
退職給与引当金		1,096,631,973	退職給与に係る見積債務額	
長期未払金		30,712,185		
流動負債		632,861,004		
未払金		26,881,591		
前受金		475,301,000	平成22年度生入学金等	
預り金		130,678,413		
負債合計		1,760,205,162		
差引正味財産		11,314,398,025		

第百七十回芸術鑑賞講座

ミュージカル「アトム」を満喫

平成二十二年度第百七十回芸術鑑賞講座は「わらび座」のミュージカル「アトム」。七月一日に開催された。アトムが活躍した時代よりも未来が舞台で、人間への絶対服従を強いられたヒト型ロボットの悲劇や、ロボットと人間との交流を描いたもの。アトムは実際に登場しないが、物語の中では存在が感じられた。

わらび座が手塚作品をミュージカル化したのは昨年十月に上演された火の鳥鳳凰編に続く二作目。学生たち

ちは歌や踊りを交えてステージで躍動する姿に見入っていた。



躍動するステージ

「星に願いを」

家庭寮七夕会

家庭寮では恒例の七夕飾りが寮生の手により施された。寮の一、二、三号館の玄関先の若竹には色とりどりの短冊にしたためられた願い事も様々だった。家族の健康、自身の勉学の向上、友人とのさらなる融和等々、また、やはり時勢を反映し、就職決定の懇願も多く見られた。願いを込めた短冊を結ぶ姿は真剣そのものの涼風に揺れるそれぞれの願い事が叶うようにと、祈るばかりである。



願い事が叶いますように

夏にお別れ

どじょうつかみ

〈附属幼稚園〉

異常に暑かった夏休みも終わり、元気に日焼けした子供たちが帰ってきた八月三十日、「どじょうつかみ」が行われた。この夏最後のプールを楽しもうと千三百匹のどじょうが放たれた。園児たちは元気いっぱいどじょうを追いかけて、歓声をあげていた。



元気いっぱいどじょうを追いかける園児たち

毛さん 五位入賞

インカレ女子水泳高飛込で

水泳の第八十六回日本学生選手大会が九月四日から大阪プールで開かれ、人間生活学科四年の毛文輝さんが女子三m飛板飛込で五位、高飛込で六位と健闘した。



毛さんの見事なフォーム

夏期技術講習会で実力アップ
デッサンなどを体験

〈生活芸術科〉

生活芸術科の実技体験講習会は八月一日から三日まで開かれ、県内の高校生ら二十五人が参加した。進学を希望する女子高校生を対象に毎年実施。デッサンやコンピュータグラフィックス、彫刻の三コースに高校生が参加。デッサンコースでは、静物をモチーフに、表現のための基本的な技術や対象をよく見つけて描くことなどを学んだ。



静物をモチーフにデッサン

個人指導を受ける受講生

〈音楽科〉

短大音楽科の受験生に対する講習会は例年になく猛暑の中、八月九日から十一日までの三日間行われた。受験生は、県内はもとより青森、秋田、茨城など広範囲にわたり、熱心に受講していた。

プログラムはピアノ・声楽・管弦楽器に分かれての個人レッスン。入試選抜時の共通科目でもある、楽典、新曲視唱、聴音の講習も行われた。認定テストに合格すると、入学選抜時にこれらの共通科目が免除されるとあって、真剣な表情で受講していた。



真剣な表情で受講する個人レッスン

池さん(短大食物栄養専攻二年)
柳田さん(附属高三年)が入賞

日本インスタントコーヒー協会主催の第十回インスタントコーヒーアイデア料理コンテストで短期大学部家政科食物栄養専攻二年池保奈美さんが女性の部、附属高校三年柳田紗也加さんが小中高生の部で同協会賞を受けた。

コンテストには全国から小中高生の部に八百七十六作品、女性の部に六百六十一作品、男性の部に百七十九作品の応募があった。

池さんの作品は「コーヒースイダーゼリー」。ゼラチンとインスタントコーヒ、サイダーを混ぜたもの。コーヒーマグの選定や適量を研究したという。

柳田さんの作品は「コーヒースタミナ炒め」。夏に不足しがちなビタミンB1を多く含んだ豚肉と夏野菜を炒め、自家製のみそとトウバンジャンにコーヒーマグ粉末を加えて仕上げたもの。柳田さんは「母が一番喜んでくれました」と語った。



池さん(右)と柳田さん

本年度芸術鑑賞講座 ― 予告 ―

九月二十八日・十月三日

「ロードンに始まる創造の軌跡―近代彫刻の歩み―西洋と日本」

十月十三日・十四日

「鮫島有美子 ソプラノ・リサイタル」

本学所蔵 紙上美術展 62

マリー・ローランサンの版画「二人の女」



一八八三年(明治十六年)に生まれ、夢見がちな少女時代のうちに画家を志す。三十歳になるころから有望な新進画家として注目され、三十一歳で結婚。第一次世界大戦後の亡命中の作品は、どれも痛切な孤独感にあふれている。

離婚して単身パリに戻ってから、

ローランサンの画風は大きく変化。彼女に肖像画を注文することが上流夫人のステータスとなり、舞台装置や衣装のデザインなどでも成功を収めた。

自らが信じる美しいものを描き続け一九五六年(昭和三十一年)に亡くなった。

木もれ陽

千人の学生を大講堂で一度に教える授業がある。それは、米国ハーバード大学マイケルサンデル教授(政治哲学)の「何が正義か」という学生たちとの対話型講義で、教授は「私の役割は、大切な問題を自分の頭で深く考察する機会を学生に与えること。日常生活の中で直面する身近なジレンマを題材にして、自分の直感や常識を確かめ、正義とは何か、公共とは何かという命題を考えてもらうのが主眼です」と語る。そこで投げかけられる難題とは、例えば「嵐の後の便乗値上げ」「アフガンのヤギ飼育」「代理母の心変わり」といった米国の若者たちを意識したものがあるが、それらは全て人類の命題へ繋がっていくものばかりである。学生たちは、議論を深めていく中で自分の生き方を深く考えていく。

先ごろ、日本の大学でも千人の若者が参加しての特別講義が催された。取

上げられた題材は、十九世紀の英国の事件から「漂流ボートでの殺人は許されるか」「イチローは高額な年俵に値するか」「オバマ大統領は原爆投下を謝罪すべきか」といった道徳、格差、過去の謝罪の問題等々、何れも現代日本の講義のために入念な準備をしてきたと教授は言う。矢継ぎ早に投げかけられる教授からの質問に、日本の学生たちも臆せずわれもわれもと挙手して、自分も気づかなかった考えを掘り起こしていった。

対話型講義は少人数のゼミのみならず千人の大講堂においても可能であることを示唆してくれている。対話型講義を試みている本学園の教員たちは同志を得た想いであろうと思う。そこでの題材は一見身近でローカルなもののようにだが、実は普遍的でグローバルな命題なのである。私たちが日常行っている授業内容は、すぐに役立つことも大切であるが、世界の人類が抱える命題を取上げているのであるという信念を強く持たたい。(均)